

1 学校教育目標

○深く考え、自ら学ぶ人
○自他を尊重する心豊かな人
○心身ともにたくましい人
人権尊重を基調として、社会の変化に対応した知・徳・体の調和のとれた人間性の育成を目指して、全教育課程において、「夢・挑戦・自立」をキーワードとした教育活動を展開する

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	将来への夢や目標をもち、自立し社会に貢献できる人材を育む学校 ○ 一人一人を大切にし、互いの良さを認め合い、個の能力を伸長できる学校 ○ あらゆる場面・機会をとらえ、心と体を磨き鍛え、豊かな人間性を育む学校 ○ 地域・保護者・学校、三位一体の総合力で生徒の育成を図る学校
○児童・生徒像	夢や目標をもち、自分で考え、判断・表現・行動し、課題解決できる生徒 ○ 基礎的・基本的な知識・技能と主体的に学習に取り組む態度を身につけた生徒 ○ 友情や思いやりの心を育て、自他を尊重する心豊かな生徒 ○ 行事や部活動・奉仕活動に積極的に取り組み、地域に感謝・貢献できる生徒
○教師像	主体的かつ的確な判断ができ、組織として迅速に動くことができる教職員 ○ 危機管理とサービスの徹底・厳守を常に意識できる教職員集団 ○ 新学習指導要領を踏まえ積極的・意欲的に研修や授業改善に取り組み、自ら学ぶ姿勢で知識・視野を広げ、専門性を高める教職員 ○ 人間性豊かで、教員としての基礎基本を身につけた教員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

・全校生徒が落ち着いた生活を送ることができている。教員の熱意ある指導により学習指導、生活指導、生徒会、部活動など充実した学校生活が営まれている。

・全教員が統一した学びのスタイルを意識した授業改善に取り組み、少しずつ定着してきている。区学力調査では、各教科学校全体の通過率はやや上昇したものの、55%に満たない学年の教科もあり、正答率も学年が上がるにつれて下がっている。

・近隣特別支援学校との交流、近隣小学校との連携・交流、地域町会自治会行事へのボランティア活動に多くの生徒が参加した。さらなる充実を図る。

・不登校生徒や特別支援の必要な生徒が多い。関係機関との連携を図り、一人一人の生徒に応じた対応を組織的に考えていく。教育相談体制の充実を図るとともに教員の教育相談技術の向上を目指す。また発達障がいのある生徒について、ケース会議を開き、共通理解、共通行動、個別の支援を行っていく。

・行事への保護者参加は増加している。しかし、授業参観・学校公開・保護者会への参加はまだ十分とは言えない。魅力ある取組について今後も考え、工夫していく必要がある。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	基礎学力の定着と向上 学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と基本的生活習慣の確立	○	○	○	○	○
3	小中連携	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－１		基礎学力の定着と向上 学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
統一した学びのスタイルが定着してきているが、形だけでなく、自力思考や自力解決が円滑にできるよう発問、方法や形態の工夫、ICTの活用等改善を図る。国語、数学、英語の３科を中心に中間層の学力を伸ばす。家庭学習の習慣化に向けた取組を実践する。		１、国語・数学・英語とも各55% ２、年度末定着度確認問題の平均正答率 55% ３、生徒アンケートで「授業がわかる」85% ４、統一した学びのスタイル関連項目達成 85%		１、国語 53.3% 数学 51.4% 英語 56.2% ２、平均正答率 国語 61.5% 数学 41.3%英語 54.5% ３、85% ４、80.3%		１、結果を受け、授業改善・放課後補充・サマースクール・ステップアップ検定等に取り組んできた。 ２、目標に達しなかった数・英の授業・補充の工夫・改善が課題である。 ３、４、アンケート結果を前向きにとらえ、授業改善に取り組んでいく。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全教科担任 全教科	授業改善推進校研究授業年４回 授業観察 日常と自己申告前後	主体的に学習に取り組む生徒の育成をめざした授業研究、研究協議を年間４回実施し、検証を行う。 管理職・教科指導専門員が日常の授業観察と観察後の指導・助言、自己申告面接、研究授業・研究協議を通して、授業改善を図る。	授業観察と自己申告面接 生徒アンケート	生徒アンケートで１、授業が分かる 85% ２、学びのスタイル関連項目 85%	・生徒アンケート 1、85% ２、80.3%。 ・授業研究 4 回実施 ・授業観察、自己申告面接時の協議は 3 回実施。	授業改善推進校の研究を全体だけでなく、教科担当ごとにもまとめ、個人としても成果と課題をはっきりさせた。	△

2 継続	I C T 機器を活用した授業改善	全教科担任 全教科	授業観察 日常と自己申告前後	日常の授業や校内外の研究授業で、I C T 機器を有効活用した授業について情報共有や研修を図り、実践する。生徒一人一台の有効な活用方法についても各教科で検討、研修し、実践する。	授業観察と自己申告面接 生徒アンケート	授業で I C T 機器が活用されている 80%	・自己申告面接前に指導案を作成した授業観察を 2 回実施。 ・生徒アンケートで「授業で I C T 機器が活用されている」と 77% が答えた。	指導案を作成することで、課題を明確にした授業研究を実施した。タブレットの活用を図っていく。	△
3 継続	家庭学習の習慣化	全生徒 5 教科	毎日	家庭学習ノートと連絡帳を兼ねた冊子を作成し、毎日提出させる。取組状況の良い例を紹介、表彰するなど学習内容の充実を図る。	毎日提出 担任が確認を行う	提出率 95%	1・2 年提出率 100%、 3 年提出率 95%	取り組めた。表彰を行い、意欲の喚起に努めた。	○
4 継続	放課後補充教室	全学年指導を要する生徒 数英の 2 科中心 時期により国理社	水を除く毎日	教科担当を中心に全校体制で行う。 各種調査結果からつまづき箇所を個別に演習する。既習内容の復習をし、基礎学力の向上を図る。	計画的実施の確認 年度末確認問題	年度末確認問題正答率 55%	年度末確認問題正答率 国語 61.5% 数学 41.3% 英語 54.5% 3 科計 52.4%	コロナ禍で休校になった時期を除き、計画的に実施できた。 数学・英語の指導	△

重点的な取組事項－ 2		豊かな心の育成と基本的生活習慣の確立			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒自らがより良い学校づくりに参画し、いじめのない「笑顔あふれる学校」「学校に来るのが楽しいと思える学校」を創る。		アンケートで「花北中の生徒でよかったと思う」と 80%以上の生徒が回答する。	「花北中の生徒でよかった」と 88.6%以上の生徒が答えた。	生徒が主体になって取り組むボランティア活動・委員会活動などを実施できた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

人権尊重教育の推進	生徒アンケート「友達や他の人のよさを見つけ、大切にしている」90%	思いやりの心、命を大切に する心、規範意識、連帯感、自 己肯定感、平和を愛する心を 道徳推進教師を中心とした道 徳の授業をはじめとして全教 育活動で育み、互いを尊重し あう好ましい人間関係を築く	アンケートで「友達や他の人のよさ を見つけ、大切にしている」と答え た生徒が96.3%だった。	道徳だけでなく、・行 事・朝礼・各種便り等 機会をつかんで指導し てきた。継続する。	○
キャリア教育の推進	生徒アンケート「夢や目 標をもっている」80%	職業教育や体験活動を通して 夢をもち将来を考え自立でき る力を育成する系統的な指導 自治活動の中で自分の役割を 果たすことで主体的な体験活 動の充実を図る。	アンケート「夢や目標をもってい る」と答えた生徒が69.7%だった。 日常生活の中で、自治活動の中 で自分の役割を果たすなど主体 的な体験活動を実施できた。	コロナ禍の影響で実施 できない体験活動があ った。生徒会本部を中 心とした生徒主体の活 動を各行事・委員会活 動・ボランティア活動 に取り入れ、実践した。	△
教育相談の充実	生徒アンケート「悩みを 相談しやすい」70%	相談室、はばたきルーム、特 別支援教室の整備 教育相談・特別支援教育に関 する研修 ケース会議の開催	アンケート「悩みを相談しやすい」 と答えた生徒が、88.6%だった。	具体的な方策はすべて 実施できた。毎週実施 した特別支援委員会で 個別のケースごとに対 応策を具体化してい く。	○
凡事徹底	アンケートでルールや挨拶等について80%以上の生徒が前向きな回答をする。	挨拶、時間、TPOをわきま えた言葉遣いなど教員・生徒 が考える当たり前のことにつ いて指導を徹底する。	アンケートでルール（90.4%）挨拶（90.5%）言葉遣い（89.3%）について80%以上の生徒が前向きな回答をすることができた。	生徒が主体的に規律を 守ろう・挨拶しよう という活動もできた。授 業、学年・全校集会な ど教師が率先して範を 示している。	◎

重点的な取組事項－ 3		小中連携		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学びの連続を意識した教育活動の推進	研究授業、課題研修等年 1 0 回実施	小中連携研修 4 回、連携を意識した公開研究授業 2 回（4 授業）実施	コロナの影響で小中連携研修等を 4 回実施できなかったが、ほかの研修は工夫して実施した。次年度も連携を図っていく。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
研究授業公開	指導案検討、授業公開等 年 6 回	統一した学びのスタイルによる授業力向上の研究授業、指導案検討、研究協議 授業改善推進校として、生徒が主体的に学習に取り組む研究授業の公開	授業公開 3 回 公開研究授業 2 回（4 授業）	休校期間のため、小中連携研究授業が実施できなかったが、公開研究授業や指導案を作成しての授業観察を 2 回行った。	△
教員の交流	共通の教育課題についての研修会 1 回 相互授業観察	共通の教育課題についての研修会 相互授業参観	共通の教育課題についての研修会を 3 回実施。 相互授業観察は 2 回実施。	共通課題の研修会（学力調査分析、特別支援、キャリア教育）は ICT を活用するなど工夫して実施できた。	○
生徒・児童の交流	交流 4 事業 児童への学校紹介等 P R 活動	児童への学校説明会、部活動紹介の企画・運営、夏季補充ボランティア、陸上指導	交流 4 事業のうち児童への学校説明会、部活動紹介の企画・運営は実施。 児童への学校紹介等 P R 活動 1 回（6 年生クラスごとに）	予定日を変更するなど工夫して実施できた。 2 事業は感染予防規制のため未実施できなかった。	○

6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・今年度も、全校生徒が落ち着いた生活を送ることができた。教員の熱意ある指導により学習指導、生活指導、生徒会、部活動など充実した学校生活が営まれている。働き方改革を意識しつつ、指導体制を維持して次年度も取り組む。
- ・授業改善推進校として全教員で授業改善に取り組んだ。全体のまとめに先立ち、各教員が 4 つの改善視点を受け個人研究に取り組み、成果と課題をまとめることができた。校内の研究成果を共有し、次年度も授業改善に取り組む。
- ・不登校生徒や特別支援の必要な生徒に対して丁寧な指導を実践できた。関係機関との連携を図り、一人一人の生徒に応じた対応を特別支援委員会を核として組織的に行った。第一学年全員面接を 2 回実施した。面談期間だけでなく、必要に応じて教育相談を実施し、教育相談技術の向上のため ケース会議を通じて研修を深めた。次年度も組織的に共通理解、共通行動、個別の支援を行っていく。
- ・近隣特別支援学校との交流、近隣小学校との連携・交流、地域町会自治会行事へのボランティア活動等、今年度実践できなかったものについては、感染予防を継続しながら実施していく。
- ・運動会は縮小開催にもかかわらず、多くの家庭から参観を得た。保護者会は工夫して複数回実施できた。授業参観・学校公開は実施を見送った。次年度も魅力ある取組について考え、工夫していく。

（２）保護者や地域へのメッセージ

花畑北中の生徒は、規律正しく和やかに、落ち着いた学校生活を送っています。本校の強みは少人数の手厚い指導ですが、その前提にあるのは生徒との信頼関係だと思っています。教職員はそれを大切に生徒たちを迎えています。感染予防対策を実施しながら、生徒と教職員のチャレンジを次年度はご覧いただきたい、そう願っています。保護者、地域の皆様に生徒たちの活躍を、輝く姿を見ていただけるよう次年度も努力していきます。ご期待いただければ嬉しいです。

（３）その他（学校教育活動全般について）